



②森林体験活動支援事業

【事業内容】

・子どもたちが、森林の中で様々な体験活動を行い、森づくりの重要性や必要性を学ぶことで、将来にわたり森林を守っていく心を育むことを目的に、教育機関等が、学校林や森林公園等で森林環境教育の一環として行う森林体験活動に対し助成しました。

【実績】

・最終的な実施機関の数は、計画の123%となる見通しです。 (単位：百万円、機関)

	計画	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込)	28年度 (見込)	計
事業費	7.0	1.0	1.7	2.3	2.3	2.4	9.7
実施機関	56	6	11	18	17	17	69

【効果】

・事業を行った保育園からは、「森林体験活動を子ども達と楽しむ中で、教師の知識も広がり、保育に生かすことができた」といった感想が寄せられるなど、自主的・継続的な森林環境教育の実施へと繋がっています。

【課題】

・保育園や小学校低学年の利用が大半であり、より幅広い年代・教育機関に活用される仕組みづくりを検討する必要があります。

【実施状況】



巣箱作り



原木しいたけ栽培体験



獣害防除作業の体験



森林のはたらきの学習

③地域の森づくり活動支援事業

【事業内容】

・県民が、森づくり活動を通じて森林の果たしている役割についての理解を深めることにより、社会全体で森林を守り育てる気運を醸成することを目的に、山梨県内に事務所を有するNPO等民間団体が行う森林整備活動に対し助成しました。

【実績】

・平成25年度から内容が重複する国の補助事業が創設されており、最終的な実施団体の数は、計画の40%となる見通しです。 (単位：百万円、団体)

	計画	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込)	28年度 (見込)	計
事業費	50.0	0.9	0.3	0.9	0.9	0.5	3.5
実施団体	68	7	2	7	7	4	27

【効果】

・参加者からは、「今後も、税事業で地域の森林整備を進めていきたい」といった感想が寄せられるなど、森林施業体験を通じて地域全体で森林を守り育てる気運の醸成が図られました。

【課題】

・内容が重複する国の補助事業があるため、要望が少ない状況です。

【実施状況】



植樹



植生保護柵の設置



下刈り



間伐木の運搬・搬出

④森林環境保全基金運営委員会開催費

森林環境保全基金運営委員会の開催

事業の効果の検証等に広く県民の意見を反映させるため、「山梨県森林環境保全基金運営委員会」を設置



委員による現地視察



基金運営委員会の開催

年度	開催日	内容
平成24年度	平成24年7月26日(木)	基金設置及び事業実施計画など
	平成25年3月21日(木)	事業実施状況及び次年度計画など
平成25年度	平成25年7月24日(水)	基金の管理状況及び事業実施計画など
	平成26年3月13日(木)	事業実施状況及び次年度計画など
平成26年度	平成26年7月30日(水)	事業実績及び基金の管理状況など
	平成26年11月7日(金)	現場視察及び事業実施状況など
	平成27年3月23日(月)	事業実施状況及び次年度計画など
平成27年度	平成27年12月24日(木)	事業実績及び基金の管理状況など
	平成28年3月22日(火)	事業実施状況及び次年度計画など

事業効果検証モニタリング調査

森林環境税を活用した森林整備事業の実施により、どのような効果が現れたのかを検証するためにモニタリング調査を実施

○光環境調査：間伐により林内に入る光がどれだけ増えるかを調査



○植栽木調査：調査区内の植栽木の樹高、根元径を測定し、経年変化を調査



根元径測定



樹高調査

○植生・更新調査：間伐により地面近くの植物量がどれだけ増えるかを調査



○土壌移動量調査：土砂流出量の経年変化を調査



土砂受け箱設置状況

○調査の概要等

■ 目的

県民の森林や森林環境税に対する基本的な認識や考え方を把握し、森林環境税を活用した事業等の見直しの参考とすることを目的にアンケート調査を実施。

■ 調査方法

郵送及びインターネット、電子メールによるアンケート調査

■ 調査期間

平成28年1月8日～1月22日

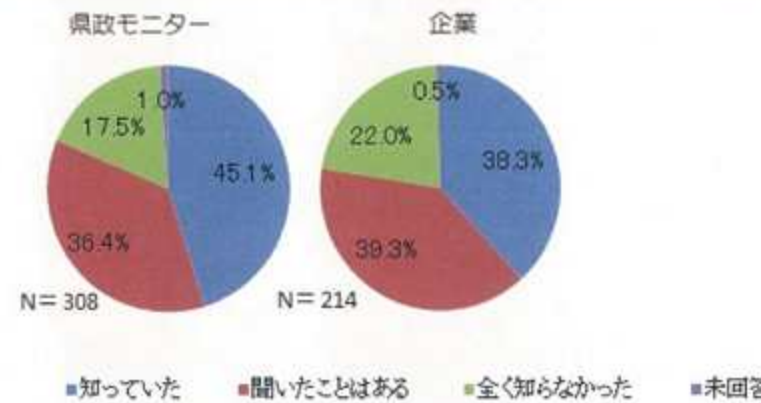
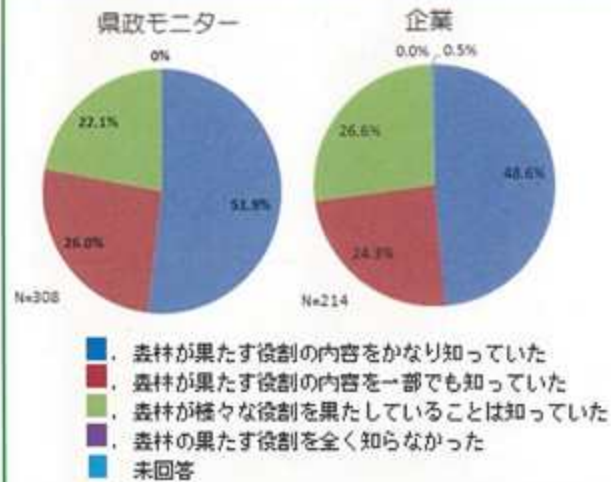
■ 調査対象者等

- ・県政モニター 397人(郵送332人、インターネット65人) <回収率77.6%:郵送267人、インターネット41人>
- ・企業 410社(郵送) 県内に事業所がある企業から無作為抽出 <回収率52.2%:郵送214社>

○調査結果(抜粋)

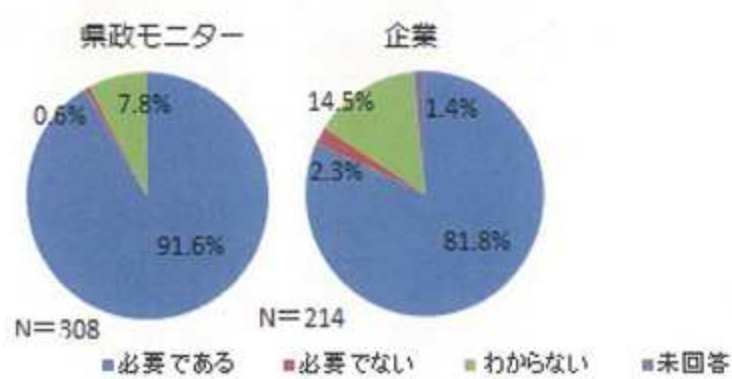
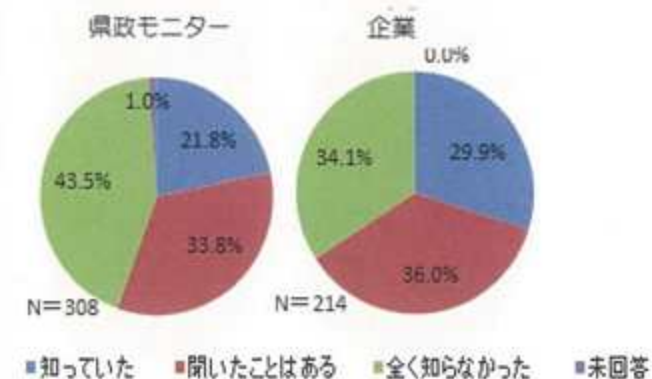
森林が様々な公益的役割を果たしていることをご存じでしたか。

現在、山梨県の民有林の多くが荒廃し、森林の多面的な機能等に支障が生じていることをご存知でしたか。



山梨県では、荒廃した森林を再生することなどを目的に、平成24年度から森林環境税を導入した事業を進めています。このような取り組みをご存知でしたか。

山梨県には、荒廃した人工林や生い茂った竹林等がまだ多いなど課題があります。これらの課題に対して行う森林環境税による森林整備などの取り組みをどのように思われますか。



○調査結果(抜粋)

制度を継続した場合、引き続き実施すべき取り組みはどれか？(複数回答可)

- 荒廃した森林の整備:9割 里山林の再生:7割 広葉樹の森づくり:6割
- 県産材利用への助成:5割 木質バイオマスエネルギー利用促進に向けた普及啓発:5割
- 森林や環境についての学習、自然と親しむ機会拡大:5割
- 森林保全や環境問題に取り組むボランティア等の活動支援:5割

制度を継続した場合、現在の取り組み以外で新たにに取り組むべき事業は？(複数回答可)

- 森林を整備する担い手(働き手)の育成:8割 シカやツキノワグマなどの獣害対策:6割
- 松くい虫等の病虫害対策:6割 集落周辺や道路沿線等の森林の修景整備:6割

制度を継続する場合、どの程度の負担が適当と思われますか。



(回答内容)  
 ・金額を引き上げるべき  
 個人年額 1000円(41人)  
 1000円以上(6人)  
 企業均等割額 10%(11社)  
 ・金額を引き下げるべき  
 個人年額 300円(2人)  
 200円(1人)  
 企業均等割額 4%(1社)  
 3%(7社)

○森林を取り巻く状況等

- ・ 近年、突発的な集中豪雨による災害や観測史上稀に見る猛暑を記録するなど、地球規模での気候変動が懸念されており、地球温暖化対策への関心が高まっています。
- ・ 森林に対しては、土砂災害の防止や水源かん養機能に加え、温暖化の防止についても役割を果たすことが期待されています。
- ・ 2020年度の我が国の森林吸収量目標(2005年度比2.8%以上)を達成するため、2013年から2020年の8年間について、年平均52万haの間伐等を推進することとしています。
- ・ 本県では、森林環境税による第1期事業で、約3,900haの荒廃森林を整備し、森林の持つ公益的機能の維持・増進を図りましたが、依然として多くの荒廃森林が存在します。
- ・ シカの個体数、分布域が拡大しており、農林業被害が恒常化しています。
- ・ 森林整備には多額の経費が掛かるため、現在の木材価格では、森林所有者の自助努力で荒廃森林を解消することは厳しい状況です。
- ・ 森林所有者の林業に対する関心の低下や不在村森林所有者の増加により、森林の状況を把握している所有者が徐々に減りつつある状況です。
- ・ 国では、継続的に森林整備を実施するための安定財源を確保するため、森林環境税(仮称)の導入を検討しています。